

第3次 竹の台5カ年計画 骨子(案)

【2024（令和6）年4月～2029（令和11）年3月】

竹の台を一つの家族に

～思いやりと元気あふれる「まち」をめざして～

■5年後のまちのすがた（全体目標）

1. 誰もが地域とつながり、安心して暮らせるまち

全ての世代が安心・安全に暮らせるよう、みんなが協力しあい、声をかけあい、支えあう「まち」にしよう。

2. 魅力あふれる人や活動がいっぱいのまち

さまざまな世代が生活し、一人ひとりが得意分野でまちの活動に参加することで、明るく、楽しく、元気あふれる「まち」にしよう。

3. 自立と自律のまち

まちに必要な活動を、自分達で考え、話し合い、決定し、実行できる「まち」にしよう。

■第3次5カ年計画の重点目標

住民同士の交流の「場」の確保と創造

ニュータウンには、住民同士が気軽に交流できる店や場所がない。そこで、子どもから高齢者まで、多様な住民が交流できる「場」としての公園の活用方法について、自治会・管理組合の協力も得ながら検討し、行政と協議していく。また、放課後の子ども達が安心して遊べる場所として学校の活用や、地域の高齢者が気軽に集まれる場として管理組合等の集会所の活用などについても住民・行政と協議を進める。

■竹の台地域委員会の活動方針

1. 竹の台5カ年計画を推進するための具体的な活動を企画・運営する人材（特に若い世代）を発掘し、育成する。
2. 住民の意見や活動を収集・集約・公開しやすい環境を整備する。
3. 日常生活のちょっとした「困った」を、気軽に相談できる地域づくりをめざす。
4. 「子育て」分野の活動を推進する。

■課題別目標（交流親睦・住民自治・高齢化・子育て・防災・防犯・生活環境）

と新たな活動提案

※下線部が第3次計画の追加・修正分、

1. 住民交流・親睦

方針：様々な立場や世代の住民同士が交流・親睦を図れる機会や場があるまちをつくる

- (1) 様々な立場や世代の住民同士が交流・親睦を図れる機会や場を企画・運営する人を増やす
- (2) 住民交流・親睦のための環境を整備する
- (3) 住民交流・親睦の場を支援する仕組みをつくる
- (4) 住民交流・親睦の場を図りやすい情報発信を行ない、積極的な参加を促す

【活動提案】

公園の活用（子どもも大人もスポーツなどが楽しめ健康増進ができる場、カフェなど住民が集まれる場、農園や屋外ステージ、雑木林や遊歩道などの整備など）

2. 住民自治

方針：自治会等を中心に、各団体が連携し、住民が主体的に参画しやすいまちをつくる

- (1) 活動や経験が蓄積・持続可能な自治会・管理組合の運営体制をつくる
- (2) 新たな人材を発掘し、地域活動主体を育てる
- (3) 地域の自主財源を確保する

【活動提案】

住民が必要（欲しい）と思う施設や店、機能について自治会懇談会やアンケート等で把握し、行政に要望していく

3. 高齢化

方針：高齢者が立場を気にせず交流し、生き生き暮らせ、活躍しやすいまちをつくる

- (1) 高齢者が肉体的、精神的に元気でいられる環境をつくるため、立場を気にせず交流できる機会や場をつくる
- (2) 高齢者が安心して生活できる環境をつくるため、専門家や関係施設・団体と地域が連携し、高齢者の生活を支援できる体制をつくる
- (3) 地域活動の今後の担い手を確保するため、高齢者が自らの能力を発揮し、再び働いたり、地域貢献できる機会や場をつくる

【活動提案】

・居場所づくり ・働く場 ・交流する場 ・相談窓口 ・生活支援 ・見守り

4. 少子化

方針：地域全体で子どもを育て、次世代も竹の台の定住を選ぶまちをつくる

- (1) 若い世代が住みたいと思う魅力を自ら発掘し、作り、発信する
- (2) 子育てしやすい環境をつくる
- (3) 子どもがのびのび遊べる環境をつくる

- (4) 子どものころから地域活動に参加できる環境をつくる
- (5) 子どもの保護者が地域活動に参画しやすい環境をつくる

【活動提案】

- ・放課後運動場の利用検討
- ・子育て世帯支援（預かり、遊びを教えてくれる）

5. 防災

方針：家庭、自治会、竹の台全体それぞれで防災対策が図れるまちをつくる

- (1) 家庭、自治会、竹の台全体それぞれで策定した防災計画に基づく訓練や、施設・設備・備蓄等の整備を行なう
- (2) 災害時に、高齢者等災害時要援護者を含め住民同士でケアできるよう、平常時から体制を整える。
- (3) 1家族1名の市民救命士習得を実現する

【活動提案】

- ・避難所運営訓練
- ・災害時用援護者への対応
- ・阪神・淡路大震災の竹の台での教訓を伝える（体験談の募集）

6. 防犯

方針：自治会・管理組合が主体となり、住民全体の防犯意識を高める

- (1) 各自治会・管理組合が自主的に、防犯活動を実施できる体制をつくる
- (2) 見守りボランティアを募集し、防犯パトロールが効果的・継続的に実施できる体制

【活動提案】

- ・見守りボランティアを増やす
- ・自治会での防犯啓発活動支援

7. 生活環境

方針：あらゆる世代の住民が協力して、環境にやさしく、美しいまちをつくる

- (1) 公園や公共施設を住民みんなが気持ち良く使えるような環境を整える
- (2) 地域で食品ロスの削減に取り組み、フードドライブの発信基地となる
- (3) オリーブを中心に、食べられる植物を活用したまちの活性化を図る。

【活動提案】

- ・フードドライブ
- ・オリーブを使ったまちづくり
- ・学校農園の活用